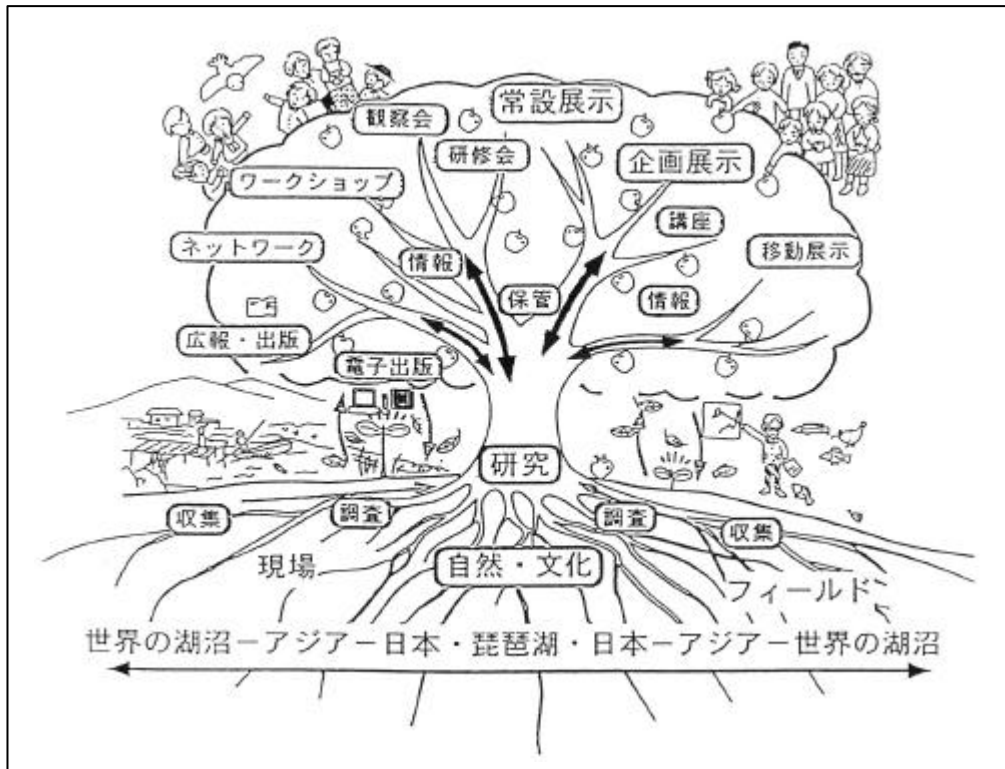


3.他県の事例

滋賀県立琵琶湖博物館



琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼり研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え今後のあり方を探るための組織として、1996年に設置されました。

(1)琵琶湖博物館の交流・サービス活動

琵琶湖博物館はただ単にものの展示を行う場ではなく、地域の人々が集まり、お互いに情報交換する場です。また博物館展示や日常活動を通じて情報を発信し、博物館利用者からの情報を受け取り、情報を通じて人のネットワークをつくる場といえます。

そのため博物館では、観覧会やセミナーなどの日常の交流事業のほか、出版、ボランティアとしての活動、同好会あるいは個人の研究のための資料利用、その他博物館という場を利用した活動の受け皿として、どのような利用形態も受け入れることができることを目標にした活動を実施しています。

博物館入門セミナー

博物館の展示から活動まで幅広く知りたいという方のための連続講座を開催しています。

フィールドレポーター制度

滋賀県下の日常的な自然、気象、生活の情報などを定期的に博物館に報告してもらう方をフィールドレポーターとして募集し、そこから得られた情報を展示に活かしていきます。博物館からはニュースレターを送付したり、研修会や見学会を開くことにより、参加者が身近な地域の自然や環境に関心を持ち、興味を広げていけるような活動の場を提供することをめざしています。

フィールド観察会

県内各地の野外に出て、自然観察・体験学習をしながら、参加者が地域の人々のくらしを見つめ直すきっかけづくりをします。

ミュージアム観察会・博物館探検

博物館のまわりの自然を観察したり、博物館の舞台裏を案内し、また、館内の実習室で実験・実習を行うことで、自然と生き物、あるいは博物館そのものにもっと関心をもってもらいます。

博物館講座・専門講座

自然や文化に関する特定の分野について、さらに深く広く知りたいという方のための専門的な連続講座。入門セミナーのアドバンス編としても位置づけられています。

田んぼ体験教室

博物館の敷地内にある田んぼを使用して、年間を通じて米作りを行い、自然と稲作が生み出す文化について考えるための体験講座を開講します。

質問コーナー

学芸員が当日の来館者を対象に、図書室にておこなう疑問・質問に答える窓口。学芸員の顔が見える博物館を目指しています。

フロアトーク・ガーデントーク

学芸員が当日の来館者に対して、展示室や屋外展示でおこなう短時間のガイダンス。原則として、土・日曜日、祝日をのぞくウィークデーの午後2時から実施しています。

夏休み相談室

子どもたちの自然や地域に対する自主的な探求心を支援するため、研究テーマ選びから集めた標本の同定まで相談に応じます。学芸員をはじめ、県内で活動している各分野の専門家が相談に対応します。

交流出版物の発行

博物館だより「うみんど」および子ども用の「うみっこ」、催し物の案内「たいけん・はっけん」、教師用ガイド「琵琶湖博物館利用の手引き」を発行しています。

ボランティア制度の検討

博物館利用者が自主的・主体的に博物館活動に積極的に参加し、それにより、博物館も利用者も発展するような、ボランティア制度づくりの検討を実施しています。

びわ湖・ミュージアムスクールモデル事業

博物館のテーマである「湖と人間」を学校の環境学習に位置づけて、展示見学だけでなく体験的活動を組み込んだ学習プログラムを学校に提供することをめざしています。

教職員等研修会

博物館の設置意図や展示概要、専門分野の解説のみならず、教育機関がどのように博物館を利用できるかについても解説を実施しています。

遠足／校外学習／修学旅行等の受け入れ

学校団体受け入れの事務手続きだけでなく、効果的に博物館を利用してもらうためのアドバイスやさまざまな学習プログラムの開発も行っています。

「体験学習の日」の活動

毎月第2、第4土曜日の「体験学習の日」に、来館した小中学生を対象とした体験学習会で、実習室を中心に行います。

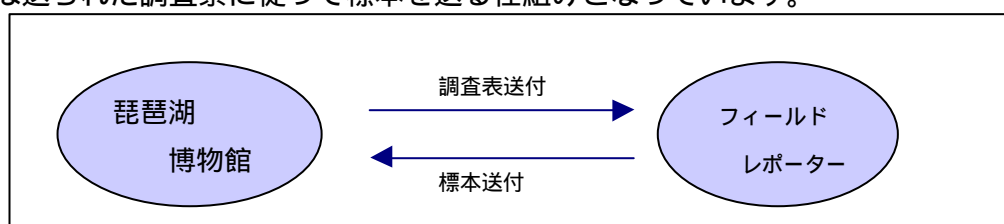


(2)フィールドレポーター

調査のしくみ

琵琶湖博物館では、フィールドレポーター制度を実施しています。これは、身の回りの自然や暮らしについて定期的に調査を実施し、博物館に報告をするというレポーターシステムです。任期は1年ですが、何年でも引き続き行うことができます。

調査は博物館からレポーターの方に調査の方法やテーマを伝え、レポーターの方は送られた調査票に従って標本を送る仕組みとなっています。



調査項目

1997年度の調査

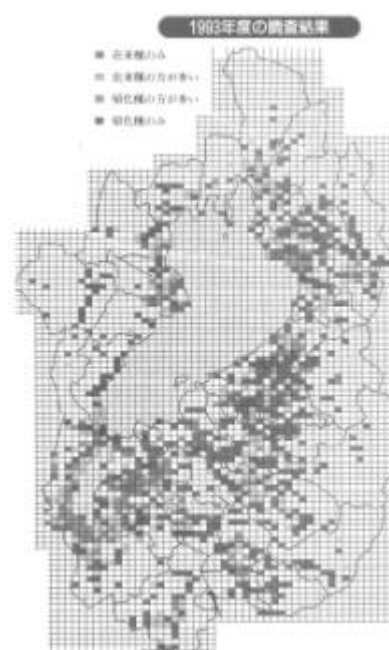
- 第1回調査 「ツバメの巣を調べよう」
- 第2回調査 「水辺の貝を調べよう」
- 第3回調査 「あなたが使った水の量」
- 第4回調査 「セイタカアワダチソウを調べよう」

1998年度の調査

- 第1回調査 「タンポポ調査」
- 第2回調査 「ホタル調査」
- 第3回調査 「案山子調査」
- 第4回調査 「お雑煮調査」

1999年度の調査

- 第1回調査 「たんぼの生き物調査」
- 第2回調査 「お地蔵様調査」



調査のまとめ

調査結果は、調査ごとにエピソードなどをとりまとめ、レポーターの方に「フィールドレポーター便り」として、報告しています。また、調査のテーマごとにレポーターが博物館の会場に集まり、資料の展示や専門家の講演を交えて、自由に意見を交換する「フィールドレポーター交流会」も開催されています。

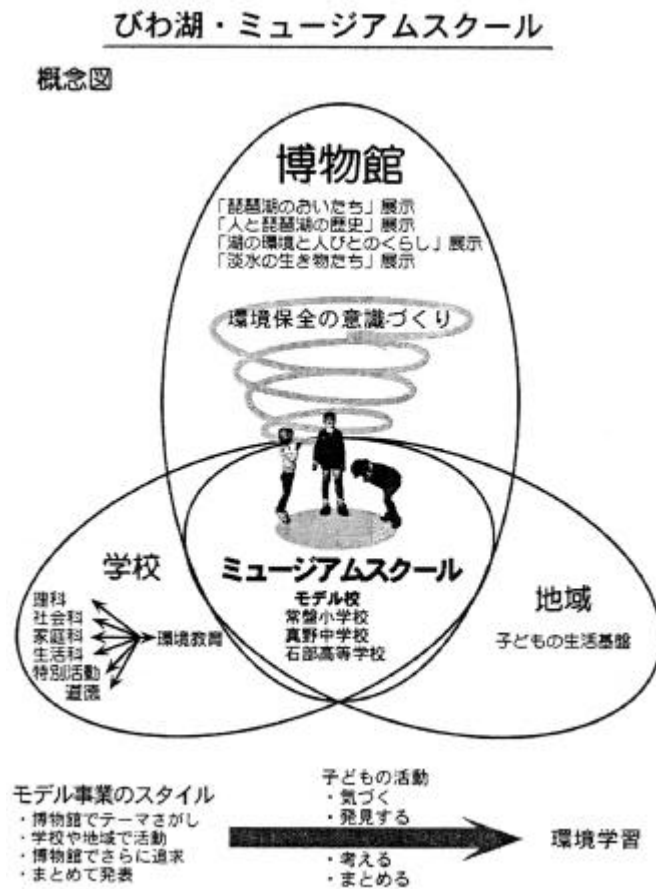
その他の参加型調査

琵琶湖博物館では、このような地域の人による調査を「参加型調査」とし、「身近な環境調査」「グループとの共同による研究調査」なども実施しています。

(3)びわ湖・ミュージアムスクール

琵琶湖博物館では、平成 11 年度のモデル事業として、「びわ湖・ミュージアムスクール」を実施しました。これは博物館が、博物館の特色を生かしたテーマに基づき、学校教育を支援するプログラムです。

「びわ湖・ミュージアムスクール」は、学校と連携を保ちながら、「湖と人間」を考える総合的な環境学習をめざし、博物館を体験学習の場として位置づけ、子どもたちの探求活動を支援することを目的としています。



「びわ湖・ミュージアムスクール」の特徴は、博物館の 3 つの理念を活かして学校・博物館・地域を巻き込んだ活動を進めることにあります。

「びわ湖ミュージアムスクール」をまとめた活用集の作成には、博物館学芸員、びわ湖・ミュージアム検討委員会、各校の先生を中心に作業が進められました。

活用集から全体概要を抜粋したものを次ページに掲載します。

びわ湖・ミュージアムスクール 小学校編

タイトル「身近な魚たちについて調べてみませんか」

テーマ

- ・どんな魚がいるのか（種類・体のつくり、生活など）
- ・人々とのかかわり（過去・現在・未来）
- ・魚たちにとってすみよい環境とは

学習をすすめる上での6つのステップ

ステップ1

オリエンテーション

1. 「滋賀県にすむ魚たち」の話
2. おもしろ生き物体験
「さわってみよう、感じて見よう」

ステップ2

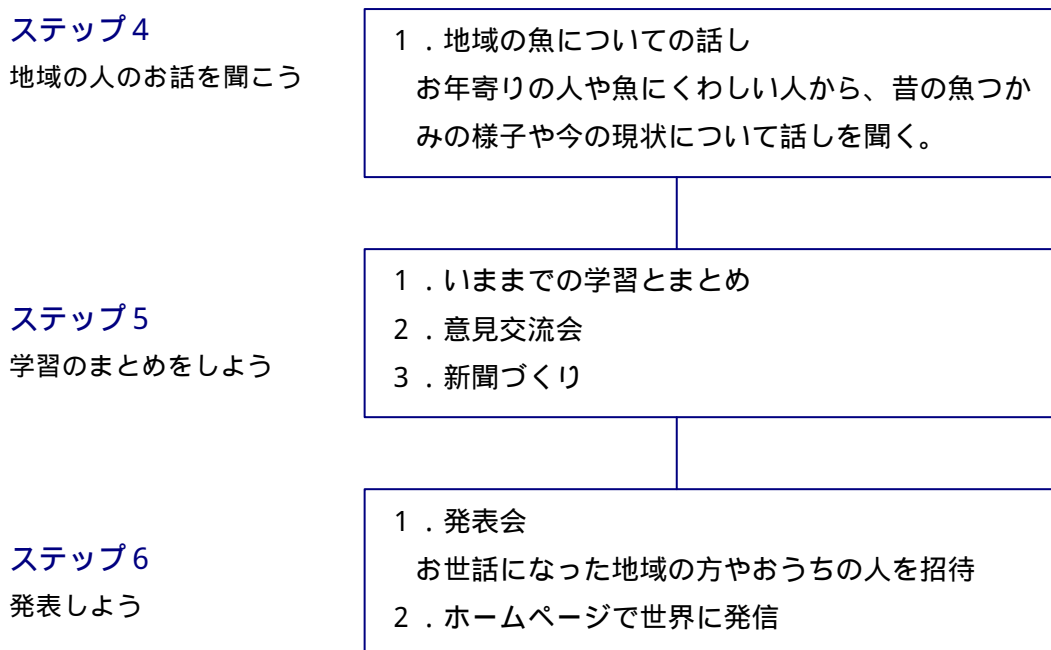
地域学習

1. 近くの川や池の生き物探検

ステップ3

博物館体験学習

1. テーマごとの体験活動
 - ・体のつくりと食べ物を調べよう（観察、解剖）
 - ・プランクトンを調べよう（採集、観察）
 - ・うろこを調べよう（顕微鏡で観察）
 - ・ひれを調べよう（標本・泳ぎ方の観察）
 - ・歯について調べよう（アユ、オオクチバス、コイ）
 - ・とり方を調べよう（タツベ、モンドリ、投網）
2. 魚と人々との関わりについて展示学習
 - ・A展示室 化石と固有種
 - ・B展示室 魚と人々の歴史
 - ・C展示室 近年の漁業や魚
 - ・水族展示室 魚の泳いでいる様子
3. 体験学習のまとめ
 - ・質問コーナー、図書室を利用



モデル校のひとつでは、5年理科「魚のたまごの成長」という単元の学習として行いました。以下は児童達の反応です。

ステップ1 学芸員からいろいろな生き物のおもしろさや飼育方法を聞いたり、さわったりする。以外と初めてさわるものが多く、歓声があがる。

ステップ2 ステップ1で学習した生き物たちが、自分の地域では、どうなのか探検しようということで「川の生き物探検」、プランクトンネットの作成、漁業センターの見学などをする。

ステップ3 10のテーマに分かれ、実習と体験に取り組む。学芸員の支援のもとに発見シートに観察結果を書いたり、テーマについてわかっことなどを書き込む。さらに新たな発見について質問をするなど、学芸員との交流も深めていた。

ステップ4 地域の年輩の人に話を伺う。真珠や昔のつり道具や写真を目にしなが、熱心に話に耳をかたむける。琵琶湖とともに生きてきた話しを聞くことにより、単なる知識ではなく、人の生き様や生き方を学ぶことができた。

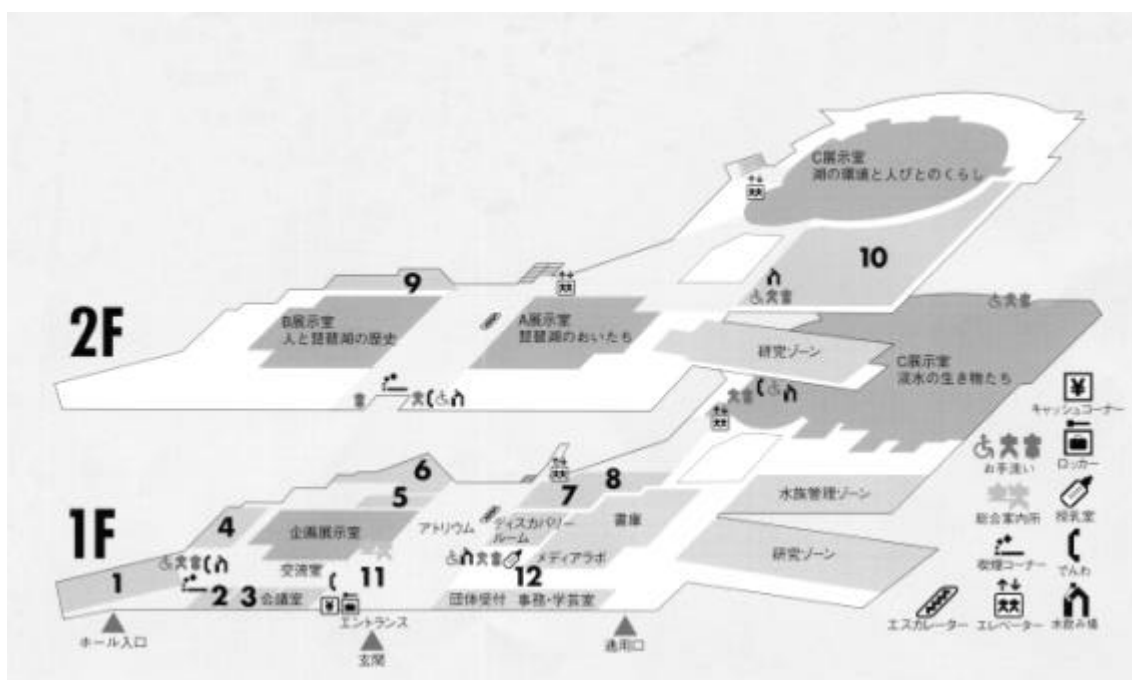
ステップ5 学習のまとめとして、保護者の人や話を聞かせていただいた方を対象に発表会を行う。

ステップ6 最後に学芸員が講評を行う。

(4) 展示活動

最後に琵琶湖博物館の展示活動について、少しだけふれます。

琵琶湖博物館では、「湖と人間」というテーマのもと、「琵琶湖のおいたち」「人と琵琶湖の歴史」「湖の環境と人びとの暮らし：淡水の生物たち」「ディスカバリールーム」（親子で体験できる部屋）という展示を行っています。足下の自然や人の暮らしに改めて目を向けることで、湖と人とのよりよい関係について広い視野から一緒に考えていく場になっています。



滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001

滋賀県草津市下物町 1091

TEL.077-568-4811 FAX.077-568-4850

ファックスサービス 077-568-4844

ホームページ <http://www.lbm.go.jp>